

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第 65 号 2020 年 4 月 5 日発行

+++++

朝早く人気が薄い頃に、野川沿いに行くと、枝垂桜が咲いています（写真）。チューリップ、ハナニラ、ツルギキョウ、ツツジ、ヤマブキ、ムスカリ、モクレン、などとても多くの草花が咲き、まだジンチョウゲも香りを残しています。小菅の畑に野良仕事に行けず、キッチンガーデンでささやかな野菜作りをしています。この美しい春に、すべての旅行は取りやめて引きこもっています。一本鎖 RNA ウィルスのパンデミックの恐ろしさが身に染みんでいます。早く流行が去って、一層美しい初夏を迎えたいですね。お大事にお過ごしください。

○お知らせ

1. 民族植物学ノオト第 13 号は電子版で発行、内容は次の通り、植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）で読めます。 <http://www.ppmusee.org/goods.htm>

巻頭言：老衰したこの国にも再生の春を希求する	黍稷農季人	1-2
志摩市磯部町穴川とさつまいも	坂番雅美	3-9
パーソナルツーリズムをターゲットとした地域資源の再構成	西村俊	10-16
インド関連の農業書および古典等に見られる穀物	木俣美樹男	17-34
まねごと山村農の 6 年記	黍稷農季人	35-60
付録：自然文化誌研究会 2019 年の活動記録	黒澤友彦	61-62
編集後記：	木俣美樹男	63

2. 個人ホームページ『生き物の文明への黙示録』は順次大幅更新をしています。生き物の文明は田中正造（1912）の言った真の文明と同じ概念です。この中で考えてきたことが現実には起こっています。第四紀の地史的気候変動、地震、津波、火山爆発に加えて、原子力発電所の崩壊、動物と人間の個体数激増、大都市過密による感染症パンデミックなどです。幾人かの研究者が 50 年前に予測していたことどもです。本気で真の文明に移行することに目覚めたいです。

○予定

1. 植物と人々の博物館

- 1) 開館・作業予定日：2020 年 4 月～5 月ウイルス対策のため休館します。
- 2) 中央アジア調査 1993 の記録 DVD： 中央アジア調査の時のビデオテープ 2 本（3 時間程度）は DVD に移し替えてもらいました。中身は大方秩父大滝の映像でした。編集がうまくできたら、動画としてホームページに掲載します。
- 3) 栽培保存種子： 雑穀類アワ、キビ、ヒエ、モロコシ、ハトムギ、オオムギ（六条、モチ在来）、コムギ、半白キュウリ、香辛料ディールなどの種子が欲しい方にはお送りします。ぜひ楽しく栽培して増やしてください。
- 4) 民族植物学ノオト第 13 号は電子出版で、2020 年 3 月 30 日付で発行しました。今回

は西村さんに最終的に編集をしていただきました。

第 14 号へのご寄稿を歓迎します。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズ）で読めます。バックナンバーは僅少ですが、希望者に差し上げます。メールマガジンもすべて記録してあります。

www.ppmusee.org/goods.html

植物と人々の博物館のホームページは国会図書館 e デポに自動収録されて公開閲覧できるようになります。

5) 電子書籍：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍の項で読めます。また、国会図書館のデジタル e デポでも読めます（自動収集）。次の電子書籍は順次必要に応じて改訂していき、確定稿に至ったら、植物と人々の博物館ホームページに移行します。当面は下記の雑穀・民族植物学関係個人ホームページで一部を読めます。

『雪虫』降矢静夫俳句集～甲武境の村・西原に生きて（1998）：ミュージアム・グッズに pdf 掲載の句集は降矢静夫師（俳号光岑）によるものです。降矢さんの人生哲学を深く学ぶために書簡および対談テープ（木俣宛約 300 通、20 本余）もすべてデータベース化し、『山村農人の教養』としてまとめます。『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』『日本雑穀のむら』は一部公開、改訂しています。『第四紀植物』および“Essentials of Ethnobotany”は非公開で書き進めています。夏までには一部公開します。

6) 森とむらの図書室

環境学習関係の録画テープ、CD・DVD なども保存しています。不要と思われるものは破壊して破棄しています。調査記録の 35 mm スライドは不要なものを廃棄しますが、できるだけ残しておきます。2000 年頃からはデジタルカメラになりましたので、DVD に保存していますから、ハードディスクにバックアップしています。デジタル・アーカイヴとして残しておきます。

寄贈冊子：お米の勉強会会報、クリンネス、現代農業、うかたま、季刊地域、グリーンもあ、グリーン・ウォッチなどをありがたく頂いています。**会員雑誌：**雑穀研究、南アジア研究、環境文明 21 会報。

2. 雑穀街道普及会：

日本における伝統的な雑穀栽培は今にも絶滅しそうな状況にあるので、雑穀街道を FAO 世界農業遺産に申請する提案普及活動をしています。2023 年は国際雑穀年になります。賛同が広がるようにご援助くださいますようお願いいたします。

* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、『日本雑穀のむら』第 3 章関東地方・第 4 章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpilvil.html>

3. 家族農業と環境学習を課題に研究助成を申請しました。

○ お知らせ 関心のある団体から

トランジション・ジャパン

ご関心の方は参加ください。エコミュージアム日本村（トランジション小菅）もネットワークに参加しています。また、木俣研究員はトランジション小金井（TTK）の会員でもあります。

家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン

ご関心の方は是非ご入会ください。連絡先は下記です。

E-mail: info@ffpj.org URL: <https://www.ffpj.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/ffpj2019/> Twitter: [@FFPJ2019](https://twitter.com/FFPJ2019)

個人会員として賛同し、ホームページに意見を掲載していただいています。

<https://www.sffnj.net/single-post/2019/05/01/voice-mikio-kimata>

~~~~~

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミュージーズ研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）、川上香（長野）ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

公式 HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

雑穀・民族植物学関係の個人 HP:生き物の文明への黙示録

<http://www.milletimplic.net/>

~~~~~



写真